

# Library News

## 山口大学附属図書館報

人間の知的必須養分	丸本卓哉…………… 1
医学図書館の最近の話題から	
	屋馬逸郎…………… 2
《お知らせ》	
閲覧業務の電算化実施について…………… 3	
自然科学系外国雑誌の変更…………… 4	

### 目次

昭和57年度図書館関係各種委員会委員名簿	…………… 4
人事異動…………… 5	
日誌…………… 5	
昭和56年度図書館統計…………… 6	

## 人間の知的必須養分

丸本卓哉

情報化時代という言葉が使われるようになって久しいが、最近是好むと好まざるとに関係なく情報の波に連日洗われている感がある。情報の取捨選択ということが要求される時代である。通信技術の発達によって、世界中のあらゆる出来事が数時間以内に手元に届くようになった。それはそれで大変結構なことであり、時によっては正確な情報を速く入手するか否かは一国の運命を左右することさえある。ところで、我々の周りにあふれている情報の中に正確なものがどれ程あるであろうか。短いものは数分の、いや数秒の命しかないものが時々見受けられたり、あるいは誤ったままの情報は何年、何十年と生き続けることもある。

情報伝達手段としては多種多様なものがある。そのスピードこそ電話、電報、テレビ等に勝ることはないが、新聞、雑誌、単行本等の印刷物も重要な情報源である。なかでも書物は情報源としての役割のみではなく、人生の知的養分源として不可欠の役割を果たしている。植物が生長して花や実をつけ、次世代へと生命を継いでいくために不可欠の養分元素を必須元素と呼んでいるが、書物は正しく人間の知的必須養分であるといっても過言ではなからう。もしこの世に書物が存在しなかったならば、人類の進歩も発展も極めて歩みののろいものであったらう。図書館はこの知的養分源の貯蔵庫である。

1979年から1981年にかけて、西ドイツ北部のブラウンシュバイクにある国立農業研究所(FAL: *Forschungsanstalt für Landwirtschaft*)内の土壤微生物学研究所において2年間の研究生生活を送る機会を得た。その間いくつかの図書館を訪れたが、いずれも人間の知的養分貯蔵庫というにふさわしい立派な建物と落ちついた雰囲気を持ったものばかりで、その利用者の層の広さから図書館が地域住民に対して開かれた身近かな存在であることが感じられた。ブラウンシュバイクより車で15分程南方にヴォルフエンビュッテルという人口5~6万の小さな街がある。幸いにして第2次世界大戦の戦禍からまぬかれて、北部ドイツの典型的な中世の街並がそのまま残っており、歩いていると時代を逆もどりした感さえする。レンガと敷石を敷きつめた旧市庁舎前の広場(マルクト)では、今も昔ながらの青空市場が水曜と土曜に開かれている。この街のたたずまいが好きで何度か散歩に出かけたものである。ここの図書館はドイツ一の古い蔵書をもっていることで有名で、昔の人々が丹誠こめて作ったと思われる皮表紙の手書きの本や、表紙に宝石をちりばめたキリスト教の教典等が、空調の効いた大ホールの壁せましと並んでいる様子は、人を驚ろかさずにはいない。私もその見事さにはしばし無言でながめたのを記憶している。ここの蔵書を求めて世界各国の研究者が毎年多数訪れているし、観光客もこの蔵書を

一見しようと必らず訪れる名所となっている。館員の応待も親切丁寧で、読書室は明るく余裕があり、図書館に行って本を読もうかという気にさせてくれる。書物や図書館は人類にとってかけがえのない財産であり、人生を充実させるための必須養分であるという基本的姿勢が伝統的に国民の間に浸透しているようで、日本と比較してその認識に歴史的差があるように感じられた。

日本人は世界でも最も読書好きの国民の中に入るのであろうが、ドイツ人もまたしかりである。しかしながら、日本人のように電車やバスの中でも新聞や週刊紙のたぐいを広げて読んでいるという光景はあまり目にかからないし、また日本みたいにどれを買おうかと考える程に雑誌の種類も新刊書も多くはない。ドイツ人は良く本を買い、良い蔵書を持っていることを誇りにする。家庭に招待されると何代も前から備えられたと思われる本をひっぱり出して来ては、昔はあであった、こうだったといって説明してくれ、興に乗ってくると、その本を手に入れたいきさつまで誇らしげに語ってくれる。日本でも近年、誕生日や送別会あるいは父の日、母の日等の記念日に送り物をする習慣がついて来たようであるが、ドイツ人が送る品物の大多数は書物であることが多い。しかも、送る相手が必要と思われるものや読みたいと思っているようなものをよく吟味して選択して送るのである。2年間の在独中私がもらった本の数は多数にのぼるけれど、もらう毎に、私が読みたいあるいは欲しいと思う本が良く分ったなと感心したものである。

第2次世界大戦後の日独の驚異的復興と経済発展は、何といても両国民の勤勉性と努力によるものであるが、それに果した書物や文献の役割は計り知れない程大きなものであろう。人生の糧、人間の知的必須養分として書物および図書館を大切にすると同時に、良書の選択眼を養い、限りある人生のなかにあって、より多くの先人の知恵と文化に接したいものである。 (山口大学農学部 助教授)

## 医学図書館の最近の話題から

昼馬逸郎

去る5月13日、14日の両日、鳥取大学附属図書館医学部分館で、第18回日本医学図書館協会中国四国部会が開かれましたが、その時の話題から医学図書館の新しい動向を、二つほどご紹介します。

その一つは、大学医学図書館と病院図書室とのネット・ワークの問題です。

飛躍的に増加、進展する医学、医療情報を比較的豊富に所有する大学医学図書館から、広くは、一般開業医まで含めた医療従事者に、どのようにして提供するかということです。

一昨年、前述部会名をもって、県内の病床数150以上の26病院を選んで、アンケート調査を試みたのですが、回答の有った17の一般病院では総数357名、一病院平均21名の常勤医師がおられることが判りました。また昭和57年版の山口県医師会会員名簿によりますと、会員数は1,700人を数えています。

いままでのところ、これらの人々に対して、一、二の病院を除いては、公式に情報を提供する道が開かれておりません。したがって、これらの人々が情報を必要とするときは、直接当館へ出向いて来られるか、出身校の知人、友人に頼まれるか、もしくは他の非公式なルートによっておられるかの、いずれかの方法によって入手しておられるわけです。

そこで、われわれ大学医学図書館としては、まず手始めとして、少くとも組織としての図書室を設けておられる病院(たいていは前述の調査対象となった大病院)からでも、公式なネットワークを組んで、公式に情報提供を行なおうというものです。

こ承知のようにアメリカには国立医学図書館(National Library of Medicine)があって、全国的な情報提供の中心的機関になっています。残念ながら、わが国にはそのような機関がありません。(日本医学図書館協会では度々、国立医学・生物学図書館の設置を要望して来ましたが、1979年ようやく、日本学術会議から政府へ勧告が出されましたが、未だ実現の見とおしはありません。)

一方、現在わが国では、これからの学術情報流通の在り方として、「学術情報システム」なる国家的な、大きな構想が立案されています。

この場合も、われわれ大学図書館は 1.情報検索の窓口 2.一次情報の収集提供 3.所在情報の形成 の三機能を分担することになっています。

これらのことから、当館を含め、中国四国各県に所在する大学医学図書館は、それぞれの地域の医学情報センターとしての役割を果たすことが、重要な責務になって来ています。

次の話題は「バックナンバーの分担保存」ということです。

これは何も医学図書館に限ったことではありませんが、先の話でも、ちょっと触れましたように、近年の自然科学系の情報量の増加はすさまじく、そのため、図書館のバックナンバーを保存するスペースも、予想外に早く不足して来ています。

最近あちこちの大学図書館の新築、増築が目立ちますが、これもこのためです。

しかし、今後も確実に増え続けるバックナンバーを各大学図書館が、それぞれ独自で書庫を拡げながら保存し続けて行くことは、敷地という物理的制約からも、とうてい不可能なことです。

また一方、自然科学系では、バックナンバーの持つ文献的生命は一応40年～50年であろうかと思われま

す。そうすると、それ以前のバックナンバーは中国四国地区のどこかに保存されておれば、必要に応じてコピーで取り寄せれば良いわけです。もちろん中国四国地区でなくとも、全国のどこかにあれば良いのですが、全国レベルでの話し合いは将来のこととして、まず、中国四国地区だけでも、それを考えようということなのです。

どの雑誌をどこが永久？保存するかを定めて、そのコレクションを完全なものにし、他の館は保存しなくても良いようにしようということなのです。

このためには、どこが何を保存するかという、分担を定めることが重要なポイントになりますが、これは図書館側で勝手に決められることではありません。各大学によっても事情が異なるでしょう。

したがって、まず分担保存という考え方に各大学が同意、協力できるかどうかを、各大学ごとで公式に意志決定をしてもらおうということで、本年は終わっています。

少し時間がかかるかも知れませんが、今後も継続的に検討し、具体的に分担資料を定めるまでに進めて行くことになっています。

以上、医学図書館の最近の話題と動向をご紹介します。

(医学部分館 閲覧係長)

## 《お知らせ》

### ◎ 閲覧業務の電算化実施について

かねてお知らせしていましたが、附属図書館では本年4月（医学部分館は6月21日）からカウンター業務の電算機処理を開始しました。カウンターには、ディスプレイ、キーボード、OCRハンドスキャナをそれぞれ1台ずつ置いて、貸出・返却処理を行なっております。貸出冊数の制限や、返却期限などは従来通りですが、利用手続などが若干変わりましたので御留意下さい。その主な点は次のとおりです。

1. 本年2月から掲示などおねがいしておりますが、まだ電算機処理用の利用登録をされていない方は、早めにカウンターで登録の手続きをして下さい。手続きをした日から1週間後に新しい利用証をお渡しします。6月21日現在で吉田地区では、学生3,266名の人が登録をすませました。これは全体の学生数のほぼ60%になります。なお、教官については、本年度初め、各学部を通じて全員登録をしていただきました。
2. 本を借りる時、従来は開架室の図書はブックカードと利用証に所要事項を記入していましたが、今後は借りたい本に利用証を添えて提出するだけになりました。
3. IDラベルの貼っていない図書（書庫内の図書）は、貸出しの都度IDラベルを貼って貸出しする

こととなります。借用の際は御面倒ですが、借用書用紙に書誌事項（書名、著者名、巻号等）を記入の上、現品とともにカウンターに提出して下さい。

4. 返却期限については、従来は利用証に記入してお渡ししていましたが、今後は返却期限を記したスリップなどでお知らせしますので、期限日を忘れないようにして下さい。
5. 本を返すだけの時は、カウンターに本を置くだけでよいのですが、返却期限を超過しているときは、貸出停止がいつまでになっているかを画面の表示によりお知らせします。

このほか、オンライン処理が可能になれば、図書の間合せや検索が出来て便利になりますが、それまで利用者の皆さんには何かと御不便をおかけすることと存じます。いましばらくご辛抱のほどお願いします。

## ◎ 自然科学系外国雑誌の変更 — 本館備付分 —

(本館) 文部省

1982年より新規

1. Contributions to Mineralogy and Petrology. (G) Vol. 79
2. Earth and Planetary Science Letters. (Holland) Vol. 57
3. Journal of Low Temperature Physics. (A) Vol. 46
4. Journal of Nutrition. (A) Vol. 112
5. Physica Status Solidi. B. (EG) Vol. 109

1981年にて中止

1. Biochimica et Biophysica Acta. E. (Holland) Vol. 662
2. " " P. (Holland) Vol. 671
3. Journal of the American Society for Horticultural Science. (A) Vol. 106
4. Thermochemica. Acta. (Holland) Vol. 51

## 昭和 57 年度附属図書館関係各種委員会委員名簿

### ◇ 運営委員会

◎印は委員長

◎岩城 秀夫 (館長)	竹尾 和典 (医学部分館長)	清水 茂俊 (工学部分館長)
関 一雄 (人文学部)	福島 吉彦 (人文学部)	堂面 春雄 (教育学部)
伊東 斌 (教育学部)	亀本 敏雄 (経済学部)	吉村 弘 (経済学部)
久保田幸雄 (理学部)	永井 克彦 (理学部)	黄 基雄 (医学部)
荻野 正二 (工学部)	鈴木 義則 (農学部)	牧田 登之 (農学部)
渡辺 信生 (教養部)	熊谷 寛治 (教養部)	梶井 正 (附属病院)
緒方 幡典 (医療技術短期大学部)		池谷元何 (工業短期大学部)

### ◇ 本館図書委員会

◎岩城 秀夫 (館長)	関 一雄 (人文学部)	福島 吉彦 (人文学部)
堂面 春雄 (教育学部)	野波 健彦 (教育学部)	亀本 敏雄 (経済学部)
吉村 弘 (経済学部)	林 隆之 (理学部)	安倍 清彦 (理学部)
鈴木 義則 (農学部)	牧田 登之 (農学部)	古賀 秀男 (教養部)
西岡 道夫 (教養部)	松川 衛 (事務部長)	

### ◇ 医学部分館図書委員会

◎竹尾 和典 (1 生化)	黄 基雄 (2 解剖)	梶井 正 (小児科)
和田 一成 (2 内科)	入澤 淑人 (法医)	緒方 幡典 (医短)

## ◇ 工学部分館図書委員会

◎清水 茂俊（分館長）	宮本 政英（機械）	池田 攻（資源）
土屋 晉（工化）	中川 浩二（土木）	福政 修（電気）
北川 亮三（生産）	中尾 勝實（化工）	岡田 敏彦（電子）
三浦 哲彦（建設）	嶋村 修二（共通）	鳥岡 豊土（工短）
藤本 幸雄（工短）		

## 人 事 異 動 （57.4～6）

高沢格雄（事務部長） 名古屋大学附属図書館事務部長へ  
伊藤和夫（工学部分館閲覧係） 徳山工業高等専門学校図書係長へ  
松川 衛 事務部長（九州大学附属図書館整理課長から）  
井関 章 整理課受入係長（徳山工業高等専門学校図書係長から）  
蘆永秀夫 閲覧課参考係長（整理課受入係長から）  
伊藤 巖 工学部分館閲覧係長（閲覧課参考係長から）  
宮田玲子 閲覧課参考係 退職

## 日 誌

- 2月2日(火) 昭和56年度国立大学附属図書館事務部長会議（於北海道大学）  
2月5日(金) 工学部分館図書委員会  
2月15日(月) 機械化にともなう新利用証作成のための登録受付開始  
3月1日(月)～13日(土) 工学部分館 雑誌へのIDラベル貼付作業  
3月8日(月)～19日(金) 本館 第2次IDラベル貼付作業  
3月24日(水) 館内研修会 石川卓美氏－防長につたわる古い典籍について  
工学部分館図書委員会  
4月1日(木) 本館 電算機による貸出業務開始  
4月9日(金) 工学部分館 電算機による貸出業務開始  
4月12日(月) 新入生へのオリエンテーション  
4月24日(土) 日本医学図書館協会中国四国部会中国四国地区病院図書室研修会（於岡山大学附属図書館医学部分館）  
5月6日(木) 工学部分館図書委員会  
5月7日(金)～8日(土) 第30回中国四国地区大学図書館協議会（於広島）  
5月13日(木)～14日(金) 第18回日本医学図書館協議会中国四国部会（於鳥取大学附属図書館医学部分館）  
5月21日(金) 昭和57年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京医科歯科大学）  
5月31日(月) 本館増築予定地の埋蔵文化財発掘調査開始（約2ヶ月の予定）  
6月17日(木)～18日(金) 昭和57年度国立大学図書館協議会第29回総会（於信州大学）  
6月21日(月) 医学部分館 電算機による貸出業務開始  
6月28日(月) 第38回附属図書館運営委員会

## 昭和 56 年度 図書館 統計

### I 蔵書数 (昭和57年3月31日現在)

	図 書 (冊数)			雑 誌 (種類数)		
	和	洋	計	和	洋	計
本 館	551,504	196,406	747,910	7,029	2,718	9,747
医学部分館	54,844	46,703	101,547	1,038	1,005	2,043
工学部分館	56,666	28,884	85,550	1,039	563	1,602
計	663,014	271,993	935,007	9,106	4,286	13,392

### II 年間受入数

	図 書 (冊数)			雑 誌 (種類数)		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	4,951	1,978	6,929	147	118	265
教育学部	4,181	1,679	5,860	350	255	605
経済学部	4,999	3,543	8,542	294	383	677
理学部	456	926	1,382	54	194	248
農学部	584	432	1,016	72	127	199
教養部	2,993	2,991	5,984	143	322	465
保健センター	12	2	14	1	3	4
学生相談所					3	3
本 館	5,405	1,516	6,921	4,702	689	5,391
小 計	23,581	13,067	36,648	5,763	2,094	7,857
医学部分館	2,830	1,985	4,815	681	688	1,369
工学部分館	2,417	1,799	4,216	703	485	1,188
合 計	28,828	16,851	45,679	7,147	3,267	10,414

### III 利用統計

区 分	開館日数		入 館 者 数			館外帯出者数			館外帯出冊数		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本 館	259	188	166,154	23,205	189,359	18,748	6,319	25,067	31,038	10,503	41,541
	一日平均		641.5	123.4		72.4	33.6		119.8	55.9	
医学部分館	296	251	24,622	*11,836	36,458	11,794	6,682	18,476	24,260	13,985	38,245
	一日平均		83.2	47.2		39.8	26.6		82.0	55.7	
工学部分館	294	192	26,008	*7,024	33,032	5,108	2,024	7,132	9,307	2,972	12,279
	一日平均		88.5	36.6		17.4	10.5		31.7	15.5	

\* 印は時間内に入館していた者を含む

### IV 文献複写 (件数)

		学 内 者			学外者	相 互 貸 借 (貸)			合 計
		私 費	公 費	小 計	私 費	私 費	公 費	小 計	
電 子 式 複 写	本 館	1,839	753	2,592	26	430	925	1,355	3,973
	医学部分館	5,099	4,231	9,330	1,015	933	1,323	2,256	12,601
	工学部分館	329	18,036	18,365	35	24	374	398	18,798
	合 計	7,267	23,020	30,287	1,076	1,387	2,622	4,009	35,372
印画引伸	本 館	0	4	4	0	0	0	0	4

編集・発行 山口大学附属図書館 〒753 山口市大字吉田1677-1 電話(0839) 22-6111